藤女子大学
藤女子短期大学

No.58

図書館だより

'00.12

北国の12月 —スウェーデンの場合—

五月女 律子（文学部文化総合学科）

北国の冬は厳しいものであるが、そこに住む人々はそれぞれの冬の楽しみを持っている。札幌にも、大通公園のホワイトイルミネーションや雪祭りなど、人々の心を明るくさせる行事がある。私が札幌で冬を過ごすのは今年が初めてであるが、同じくらい寒い北欧のスウェーデンで２回ほど冬を過ごした。私が留学したストックホルムでは、12月の冬至の頃には午前9時に日が昇り、午後3時には日が沈んでしまう。またその間の太陽は、地上に顔を出しているときも、まるで地を這

目　次

北国の12月－スウェーデンの場合－…… 1
五月女　律子
新収『大正新脩大蔵経』の威容…… 4
伊藤　敬
図書館本館のレイアウトが変わりました …… 6
新着ＤＶＤ紹介 …… 8
「記念誌 藤女子短期大学50年 藤女子大学40年」が刊行されました …… 9
新任スタッフ紹介 …… 9
冬休みの図書館 …… 10

うようである。もっと緯度の高い地域では、ほとんど太陽が地上に出ることはない。

そんなスウェーデンでは、最も日照時間が短く寒い12月を楽しく過ごすため、さまざまな行事が催される。スウェーデンも他のヨーロッパ諸国と同様、国民の大半がキリスト教徒であるため、12月に行われる行事のほとんどがキリスト教関係のものである。信仰心があまり深くないといわれているスウェーデン人も、12月は教会に足を運ぶ回数が増える。

まず、12月の一番最初の行事は、アドベント（Advent）である。12月の最初の日曜日に、多くのスウェーデン人が教会を訪れる。各家庭では苔と苔桃の枝を入れた小箱に立てた4本のろうそくの1本目に火を灯す。日曜日ごとに新しいろうそくに火を灯し、クリスマスには長さの違う4本のろうそくに火が灯るのだ。また、街がすっかり暗くなる夕方には、オフィスや家の窓辺に電球の明かりが灯った星形の飾りやキャンドル・スタンドが輝きはじめ、街全体がクリスマスムードに包まれる。

ペッパーカーカ（pepparkaka）といわれるジンジャークッキーが、スーパーや食料品店の店頭に山積みとなるのも、この頃である。子供のいる家庭では、それぞれの家庭で受け継がれているレシピで、親子でペッパーカーカを作る。また、この頃には、何かの集まりや時には街角でグロッグ（glögg）という、香料を入れた暖かい赤ワインが振る舞われる。グロッグの香りが街の中に広がると、クリスマスも目の前であることが感じられる。

12月10日にはノーベル賞の授与式が、ストックホルムの中心にあるコンサートホールで行われる。今年、筑波大学名誉教授の白川英樹氏が化学賞に選ばれ話題となっている、あの賞である。私は滞在中に政府奨学金留学生の中の抽選で選ばれ、幸運にもノーベル賞の授与式に参加することができたが、とても素晴らしい体験であった。正装の人々がコンサートホールに集まり、国王夫妻が各賞を受賞者に授与する式典は、荘厳な雰囲気のなかで行われる。コンサートホールの周りは、街のクリスマスのイルミネーションとも相まって、とても華やかなムードが漂う。

次の行事はルシア祭（Lucia）である。学校、会社、町で光の象徴である「ルシア」に選ばれた女の子は、12月13日の朝に、火を灯したろうそくの冠を頭に乗せ、白いロングドレスの衣裳に真紅の帯をつけ、白い衣裳の少年少女とともに、コーヒー、サフランパン、ペッ

パーカーカを配って回る。そして、皆でそろって「サンタ・ルシア」の歌を合唱する。教会でもルシア祭が行われ、多くの人がこの日に教会に足を運ぶ。

このルシア祭は、本来はイタリアのシチリア島の聖ルシアを祝うものであったが、1927年にストックホルムの新聞がルシアを選んでから、ルシアを選ぶ行事は全国に広がっていった。このルシアの衣裳を見た日本人の多くは、「えっ、八つ墓村？」と一瞬恐怖を感じるのだが、ルシアと少年少女の清らかな歌声を聴くと、すぐにそんな印象は吹き飛んでしまう。そして、この時期の街の広場には、クリスマス市場と呼ばれる、クリスマスに関連する食品や品物を売る小さな屋台が並んだ市場が現れている。街はもうクリスマスプレゼントを買う人々で溢れかえり、あとはクリスマス本番を待つばかりとなる。

そして、クリスマス。スウェーデンではユール（Jul）と呼ばれる。クリスマス・イヴは、家族でクリスマスディナーを囲むのが伝統である。クリスマスの特別料理として出されるのは、大きなクリスマス・ハムである。また、牛乳で煮込みシナモンをかけて食べるお粥などがクリスマスの定番である。そして、家族でクリスマスのプレゼントが交換される。サンタクロースはスウェーデンではユール・トムテン（Jul tomten）と呼ばれ、子供たちにプレゼントを持ってくる。

一夜明けてクリスマスの朝は、早朝のミサのために教会に出かけるが、その日は静寂と休息の日として静かに過ごす。対照的に、大晦日は新しい年の訪れを友人とともに祝い、夜9時頃から花火が上がりはじめ、12時を迎えるとシャンパンで乾杯する。こうして、スウェーデンの12月は終わるのだ。

では、皆様が素敵な12月をお過ごしになるよう、最後にスウェーデン語のクリスマスと新年の挨拶で締めくくることにしよう。

God Jul och Ett Gott Nytt år!
（楽しいクリスマスとよいお年を!）

新収『大正新脩大蔵経』の威容

「大正新脩大蔵経」
183/Ta24/33-B:3

初夏のころであったろうか。新着図書案内の所に、数十冊の大形本が展示されていた。珍しく思い近づいてみると、それはなんと、金色の背文字もあざやかな『大正新脩大蔵経』の一セット。しばし見とれて言葉を失っていると、たまたま居合わせた館員が、これはさる方からの寄贈、という。

そのさる方とは、苫小牧市在住の北川利夫氏（九十有余歳）。たまたま文学部改組、日本語・日本文学科新設の事を昨年十一月に新聞紙上で知り、寄付を思い立たれたとのこと。本学とは特に縁の深いお方ではないと聞く。

『大正大蔵経』は、大正から昭和にかけ、十二年余りの歳月を費やして完成。今回頂戴したのは昭和四十二年に刊行終了をみた『新脩』版（全88冊）のもの。北川氏のお便りに「北海道で持っているのは十二人位です」とあるように、貴重・高値、この上ない贈り物なのであった。標記の「威容」とは『大正新脩大蔵経』と篤志家北川氏との謂いであった。

かつて在職中、購読や演習で、また研究書・論文を読む中で、度々この『新脩』版による引用に悩まされた。いや逆で、悩まなくて済んだ。勿論私の怠惰がそうさせたのであるが、本学の『大正新脩大蔵経』不在が幸い？したからでもある。

近年、日本文学研究のますます学際化する中で、特に身近かで重要なものの一つが、仏教であろう。私の所属する和歌・中世文学会での諸発表にもそれは顕著であり、そのためには、経典、その疏・注、さらに直談など、

まずは『大正新脩大蔵経』に拠らなくてはなるまい。もともと極端に仏典に弱かったから、私の退職後にこれが書庫に収まったのは、やはり幸い？というべきか。新着図書案内の書架でその背文字の金色がまぶしかったのはそのせいだったと、今にして思い返される。

（元本学教授　伊藤　敬）

参　考　資　料

（大蔵経関係で図書館に所蔵している資料です）

昭和新纂国訳大蔵経
183/Ko54（書庫一層）

増補改訂　日本大蔵経（全１００巻）
183/N71（２２０室）

国訳大蔵経　和装本（全５６巻）
183/Ko54（２２０室）

北川利夫氏には『大正新脩大蔵経』のほかにもたくさんの資料をご寄贈いただきました。これは、その一部です。みなさんもぜひ利用してください。

書名	著者	出版者	請求記号
印度仏教固有名詞辞典		法蔵館	180/A31
木村泰賢全集	木村泰賢	大法輪閣	180/Ki39/1～6
仏教大辞彙		富山房	180/R99/1～7
望月仏教大辞典		世界聖典刊行協会	180.3/Mo12/1～10
宇井伯寿著作集	宇井伯寿	岩波書店	181/U56/1～9
大乗仏典		中央公論社	183/D19/1～15
阿含経典	増谷文雄	筑摩書房	183.1/Ma69/1～6
弘法大師空海全集		筑摩書房	188/Ku94/1～8
密教大辞典		法蔵館	188/Mi24/1～6
南都七大寺		学習研究社	708/N71
重要文化財－彫刻－		毎日新聞社	709/J98/1～6
国宝		毎日新聞社	709/Ma31/1：1～6：2
国宝彫像		徳間書店	709/Sa32/1～3
梵和大辞典		講談社	829.89/O25
仏教説話文学全集		隆文館	913.08 /B87/1～12：1

貴重な資料を多数ご寄贈いただき、ほんとうにありがとうございました。

図書館本館のレイアウトが変わりました

○ 図書館閉館中には…

今年の夏期休暇中は本館書庫1・2層の資料が長期間使用できなかったり、例年より閉館期間が長かったことでみなさんには大変ご迷惑をおかけしました。閉館中には書庫の階段工事、カウンター移設工事に加え、図書館スタッフ・学生アルバイトによる奮闘（暑い中本当にお疲れさまでした）により、館内・外での資料移動が行われました。これらの作業はすべて、来春の「現地下食堂を図書館の集密書架へ転用」するための下準備となります。

○新カウンター登場！

その夏休みの閉館をはさんで、図書館本館のレイアウトが変わりました。まずは、カウンターの位置が移動したこと。明るい木目調になったことやカウンター周りをカーペット敷きにしたせいか、以

前に比べて明るくなったという声がよく聞かれるようになりました。旧カウンター跡地は新着雑誌架・指定図書のコーナーと、新着書展示・特別展示のコーナーに変身。長期間利用できなかった書庫1·2層の階段工事が終わって、階段の向きが変わったことにはもうお気づきですか？現在書庫1層の階段近くはまだ囲いがしてありますが、ここにも現在の地下食堂に続く階段ができる予定です。

○インターネット端末増設

図書館に入って左側にはパソコン端末が３台増設されました。３台ともインターネットの利用ができますが、うち２台は各種データベース優先端末、１台はCD-ROM優先端末となっています。今まで本館では係の代行検索となっていた朝日新聞記事検索データベース（DNA）が自由に使えるようになりました。利用できるCD-ROMの種類も増えています。データベース・CD-ROMを使いたいという方は優先的に端末を利用できるよう配慮しますので、気軽にカウンターに申し出てください。

○まだまだ変わる図書館

さて、冒頭でも少しふれましたが、図書館本館は今後もまだ大きな変化を控えています。来年４月以降、現在の地下食堂が図書館の書庫になり、館外に別置している資料もすべて館内に並びます。そのための工事と資料移動作業等のため、閉館期間はかなり長くなる予定です。みなさんにはまたご不便を強いることになってしまいますが、その分より使いやすく親しみやすい図書館として来春には再オープンしたいと思っています。今後の閉館予定等については掲示板や図書館ホームページでご案内します。

新　着　D　V　D　紹　介

「毎日映画コンクール大藤信郎賞：受賞短編アニメーション全集」
全８枚　＜本館所蔵＞

≪大藤信郎賞≫は、日本のアニメーションのパイオニア、大藤信郎の名を記念して、大藤の姉・八重によって創設された、日本最初のアニメーション賞です。同賞は毎日映画コンクールのアニメ部門賞として大藤の死去の翌年、1962年から設けられました。趣旨には＜故大藤信郎氏を記念し、毎年その年度中のアニメーション映画の領域で新しい成果をあげた個人またはグループに贈る＞と記されています。このたび、その毎日映画コンクール大藤信郎賞受賞作品群の中から、日頃見るチャンスが極めて少ない短編を集めてまとめられた「毎日映画コンクール　大藤信郎賞受賞短編アニメーション全集」全８枚が本館に入りました。この全集には、これまでビデオなどに収録されたことのない珍しい作品がいくつも収められており、大藤信郎自身の作品のほか、手塚治虫や九里洋二をはじめとする巨匠から新進アニメ作家の作品など１２作家３０作品、さらに、受賞作家インタビュー、作品受賞データなども収録されています。どうぞご覧ください。

（参考資料：付録「大藤賞について」）

大藤　信郎
（オオフジ ノブロウ）〈1900-1961〉について

本名大藤信七郎。18歳でアニメ作家幸内純一のスミカズ映画社に入り動画を学んだ。大正10年自由映画研究所（のち千代紙映画社）を創設、千代紙によるアニメ「馬具田城の盗賊」「孫悟空物語」などで華々しく登場。戦時中は文部省、海軍の委託作品、戦後は日本神話など。昭和27年の「くじら」はカンヌ映画祭でピカソに激賞された。他に「こがねの花」、共作「西遊記」「蜘蛛の糸」「天孫降臨」「ガリバー旅行記」などがある。

「記念誌 藤女子短期大学50年 藤女子大学40年」が刊行されました

「記念誌　藤女子短期大学５０年 藤女子大学４０年」が刊行されました。先に刊行した＜記念誌＞から、２０年ぶりになります。この間、本学を取り巻く環境は大きく変化し、本学もまた、それに伴い大きく様相を変えてきました。本記念誌では、関わりの深い多くの記事や写真でその様子を伝えています。

皆さんもぜひ図書館で実際手に取ってご覧ください。そのずしりとした感触の中に、きっと本学の歴史の重みを感じられることでしょう。

「記念誌　藤女子短期大学５０年　藤女子大学４０年」 ＜377/F57＞
「藤女子短期大学３０年・ 藤女子大学２０年記念誌 」 ＜377/F57＞

新任スタッフ紹介

栃木　歩
情報サービス係

こちらで働き始めてから、早くも３ヵ月が過ぎました。今のうちにたくさんの本に触れておこうと、毎日少しずつ読んでいますが、学生時代には存在を知らなかった本も多く、改めて藤の蔵書の多さに驚いています。

みなさんに気持ちよく図書館を利用して頂けるよう頑張りますので、よろしくお願いします。

南部　仁美
情報サービス係

皆さん、こんにちは。私が閲覧室で働くようになってから、はや２ヵ月が過ぎようとしています。毎日が新しい発見の連続で、周囲の人々に支えられ、色々と失敗しながらも、非常に楽しく、充実した日々を送っています。図書館内や閲覧カウンターに赤いエプロン姿でいますので、気軽に声をかけてくださいね。

冬休みの図書館

● 期　　間　１２月１６日(土)～１月１５日(月)

● 開館時間　月･火･木･金　9:00～16:30
　　水　　10:00～16:30
　　土　　9:00～12:30

● 休　館　日

2000年 12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2001年 1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

は閉館です

● 長期貸出　12月 9 日(土)より開始します。
　　1 月22日(月)が返却日です。
　　1 月 9 日(火)からは通常貸出(２週間)となります。

● 貸出冊数　各館資料 30 冊までです。

☆ 詳しくは掲示板･配布資料をご覧ください。

藤女子大学
藤女子短期大学 **図書館だより** 第58号 2000.12

発行者 札幌市北区北１６条西２丁目　藤女子大学図書館
TEL 011-736-5405　FAX 011-709-4770
http://library.fujijoshi.ac.jp/index.html